

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	13 住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成	政策担当部局	土木部, 農林水産部
			評価担当部局	土木部

政策の状況

政策で取り組む内容

昭和40年代以降、大幅に投資拡大を図り整備してきた社会資本は、今後維持更新の時期を迎える。厳しい財政状況、人口減少が見込まれる中で、これまでの「新規の建設・整備を中心とした方向」から「維持管理を重視し、既存施設の保全と有効活用を図る方向」へと政策の重心を移し、長期的な視点に立った社会資本の整備を推進する。

また、道路や河川堤防など、地域に根ざした身近な社会資本の整備、維持管理にあたっては、住民と行政が連携し、地域と一体で取り組む体制づくりを推進する。

さらに、都市や農山漁村においては、住民と協働のもとで、地域の自然、歴史、文化等や人々の生活、経済活動、さらには農地や森林が持つ水土保全機能など、多様な要素を生かした景観の保全と整備を促進するとともに、美しい景観を生かした地域づくりを推進する。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額, 施策の事業費合計)	目標指標等の状況	現況値 (測定年度)		達成度	施策評価
30	住民参加型の社会資本整備や良好な景観の形成	548,340千円	アドプトプログラム認定団体数	255団体 (平成20年度)	A	概ね順調	
			中山間地や農地の保全活動に参加する団体数	770団体 (平成20年度)	A		
			景観行政団体数(市町村)	1団体 (平成20年度)	B		

目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

政策評価(総括)

政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> 住民参加型の社会資本整備や良好な景観の形成に向けて1つの施策で取り組んだ。 アドプトプログラム認定団体数や中山間地や農地の保全活動に参加する団体数は、目標値を上回っており、住民の社会資本整備に対する関心は高まっていると考えられ、住民参加型の社会資本整備は順調に推移している。 アドプトプログラム：アドプトとは「養子縁組」をするという意味で、地域の人々が道路や河川などの公共スペースを我が子のように面倒を見ることから命名。住民と行政とが役割分担の下で、継続的に清掃・美化を進めるもの。 豊かな自然や美しい景観の保全に向け、集落の協定に基づく農業生産資源や環境資源の保全向上活動が、着実に実施されている。 景観行政団体として1団体が認定されたが、今後も市町村に対する支援を継続する必要がある。 以上のことから、住民参加型の社会資本整備や良好な景観の形成は、概ね順調に推移していると考えられる。

政策を推進する上での課題等と対応方針 施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等と次年度の対応方針

・ストックマネジメントを実践していくため、社会資本施設の診断カルテ作成に取り組んでいくとともに、身近な社会資本施設の維持管理に住民参加が拡大されるようアドプトプログラム事業の普及、啓発に努めていく必要がある。
 ストックマネジメント:新たに建設する施設を含めた公共土木施設等全般について、保有する機能を最大限有効に活用できるよう総合的な事業管理を行うこと。

・農村では、高齢化や後継者不足等に伴い集落活動の減退が懸念されるとともに、農業者による環境資源の維持・保全が困難になっているため、他事業との連携、非農家の参画による地域活性化も想定しながら、農村振興を検討する第三者委員会に諮問するとともに、一般県民への事業PRに努める。